学校と家庭・地域を結ぶ通信

令和６年４月３０日

第　２　号

校報 たいらだて

八幡平市立平舘小学校

文責：長山　政志

お忙しいところありがとうございました　授業参観

４月２５日（木）は、今年度１回目の授業参観を行いました。保護者の皆様には、お忙しいところご来校いただきありがとうございました。新しい学年になった子ども達の学習の様子をご覧いただき、いかがだったでしょうか。それぞれの学級で自分たちの課題を解決するために、真剣に学習に取り組みました。

参観後は、PTA 総会、学級懇談会、専門部会、評議員会と長時間にわたりありがとうございました。皆様と顔を合わせて開催できたことは、大変ありがたいことと思っております。また、各学年や専門部、評議員会で様々ご意見を頂戴しありがとうございました。この１年保護者の皆様と手を携え、子ども達のためにより良い教育活動を工夫しながら進めていきたいと思います。今後ともご支援とご協力をお願いいたします。

【授業の様子　６年生】

【授業の様子　１年生】

交通安全教室

【自転車の練習】

４月２４日（水）に交通安全教室を行いました。１・２年生は安全な歩き方、3～6 年生は安全な自転車の乗り方についてご指導いただきました。指導員の皆様、警察署の方、大変ありがとうございました。

安全な歩行については、登下校の際にはどうしても国道を横断する子どもたちもたくさんいます。信号機や押しボタンの信号機があるとはいえ、最後は自分の目で見て安全を確認して横断しなければなりません。また、一歩裏に入ると道幅の狭い道路や見通しの悪い箇所もあります。お陰様で登下校の際は、指導隊の皆さんや地域の方々、保護者の皆さんに見守られています。しかし、道路を歩くときや自転車乗りも含め、自分の命を自分で守るためにご指導いただいたことをしっかり守ってほしいと思います。自分の命を自分で守れる子ども達に育ってほしいと願っています。

【歩行練習】

自学のすすめ

八幡平市教育委員会で作成している家庭学習通信「ハチマンタイム自学のすすめ」を、PTA 総会資料に改めて添付しました。学級懇談では、各学級で学年に応じた家庭学習の仕方について、担任より説明をいたしました。まなびフェストには、家庭で取り組むことに、「毎日家庭学習をする習慣を身に付けさせます」という項目があります。

なぜ学習をするのか？家庭学習が必要なのか？ということについて、子ども達に考えさせたり、伝えたりしています。ただ、私たち大人が思うほど、子ども達が理解しているかは疑問が残ります。なぜという問いへの答えは次のように考えます。

①自分の可能性を広げ、もっている力をさらに伸ばすため
⇒将来の仕事や社会生活につながります
②くり返すことで身につく可能性が高くなる
⇒身につくと楽しくなります
我慢強さが身につきます
③自分の時間をコントロールする力を身に付けるため

⇒自分の感情に左右されず、時間やとるべき行動を考えてできるようになります

今は未熟な子ども達を、将来自分の力を発揮できるよう導くのが私たち大人の役割だと考えます。保護者の皆様と一緒に子ども達を導いていきたいと思っています。

学校運営協議会

４月２４日（水）に今年度第１回目の学校運営協議会を行いました。今年度の学校以外の運営協議会委員を １３名の方々にお願いしています。委員の皆様には、これまでも教育活動の様々な面でご支援をいただいております。今年度の学校運営方針に承認をいただき、主な事業について熟議をいたしました。

今年もまち歩き稲作体験、神楽、スキー学習、相撲フェスティバル、ひょうたん池遠足、登山等どの学年もお世話になります。また、家庭科の裁縫でご支援をいただきます。このような活動を継続してくための課題も出されました。保護者をはじめ地域の皆様のお力をお借りして教育活動を進めていく大変貴重な仕組みです。この仕組みを活かして、子ども達にとってより良い教育活動が展開できるよう、協議会の皆様には今後ともご支援をお願いいたします。あわせて、保護者の皆様にも様々な活動へのご支援をお願いするかと思いますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

ある日の出来事から・・・

- ある朝のことです。２年生がつくしを手に登校してきました。「これ、あげる」と一言。３ 本のつくしをくれました。どこにたくさん生えているとか、温かくなったからだとか、少しの間でしたが、季節を感じるとともに環境の変化を感じる時間となりました。ちなみに、１ 年前も同じようにつくしをくれた子でした。
- ４ 年生の算数の時間のことです。自分なりに答えを導き出してノートにまとめているところでした。みんな自分なりに考えたことを書いていましたので、「どうしてそうなったの」と聞いてみていたのです。ある子が書いたものを消していたので、「どうしたの」と尋ねました。何かが違うと思ったようです。その時は理由を答えられませんでしたが、間もなくみんなで確かめ始めました。すると、何かが違うと思ったところに気付いたようです。尋ねてみると、「わかった」とのこと。「さっき書いたものを消さないで、つけ足せばよかったのに。もったいないよ。」と伝えると、改めて書き直してから自分なりに修正を加えていました。このようなノートが、自分自身の納得した学びにつながるのだと感心しました。